

ほんのもり

No. 6 2023.10



富岡中学校図書館
学校司書 村木加津

～富岡中図書館だより～

『寒露（かんろ）』という言葉を知っていますか？

日本には四季がありますが、その四季をさらに細かく分け、半月ごとに名前がついた二十四節気のひとつです。秋は8月から始まり「立秋」「処暑」「白露」「秋分」「寒露」「霜降」に分けられ、「寒露」は10月8日から22日頃のことです。さわやかな晴天にめぐまれ、豊かな実りをもたらし、夜には澄んだ虫の音が聞こえ、秋の中で最も過ごしやすですが、「涼しさ」から「寒さ」へと向かう時期でもあります。体調に気をつけてみなさんにとって実りのある時間を過ごしてくださいね。



「大気がすがすがしい秋、いつもの挨拶の言葉も新鮮にひびきます。」という意味だよ！

今月のテーマ ♪ 『合唱』

『くちびるに歌を』 中田永一

長崎の五島列島の中学校。合唱部顧問の松山が産休に入るため、松山の中学時代の同級生柏木ユリに1年間の期限付きで合唱部の指導を依頼する。実は、柏木は東京でプロのピアニストとして活動。おまけに、美人ときたから 柏木目当てに合唱部に入部したいという男子生徒が続出。もともと合唱部には女子しかおらず、以前から合唱部に所属していた女子と軋轢（キレツ）が生じる。柏木は課題曲「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」にちなみ、「15年後の自分に向けて手紙を書け」と部員に宿題を出す。部員がそれぞれに抱えている秘密と心の傷も明らかになっていく中、ある事件を経てやる気のなかった男子生徒もコンクールに向けて真面目に練習に打ち込み、次第に部内のわだかまりが解消されて本番に挑むことになる。映画化されました！！



『表参道高校合唱部！』 桜井剛

香川県から表参道高校へ転校してきた真琴は合唱部に入部。だが、かつての名門合唱部は、いまや人数不足で廃部寸前。合唱が大好きな真琴は、はたして合唱部を立て直すことができるのか・・・。歌の力で学校にミラクルを起こす青春ストーリーです。読んでいるうちに思わず、歌をくちずさんでしまいたくなります。

『学校で楽しむみんなの合唱①』 さいとうみゆる

「合唱」を楽しむためのシリーズ。1巻は「校内合唱コンクール編」としてクラスの話し合いから始め、合唱の基礎知識をイラストを多用しQ&Aも交えてやさしく解説。全3巻あります。

今月の一句

響爽ひびきさわやかかいたただきますこころばすという言葉

中村草田男

お仕事特集!

おもしろい本が読みたい人は、この指と一まれ。



本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

『タクジョ!みんなのみち』 小野寺史宜

運転が好き、ひとも好き。タクジョ・夏子、今日も快走!高間夏子は四大卒の新人タクシードライバー。女性客が安心してタクシーに乗れるよう、自分が運転手になることを決めてこの道に進んだ。女性の比率は3%。無賃乗車や強盗など不安要素も尽きないが、個性あふれる先輩や同期に励まされ、家族に支えられて、誠心誠意、仕事に恋(?)に立ち向かう。温かくて爽快な青春お仕事小説です。司書のイチオシ。

『なぜ僕らは働くのか』 池上彰

不登校になったハヤト。両親は母親の実家のある広島に引っ越すことを決断。新しい環境にも慣れてきたころ、学校では職場体験の準備が進んでいた。将来への不安を日々感じていたハヤトは、ふと「働くことの意味」「就きたい仕事」について思いをはせる。そんな時、叔母の優からある本の一部を手渡される。そこにはハヤトがまさに悩んでいた「働くとはどういうことか」が書かれていたのであった。

『ハケンアニメ』 辻村深月

アニメプロデューサーの有料香屋子は、天才アニメ監督といわれる王子千晴の作品の大ファン。彼女が口説きに口説き、ついに王子が9年ぶりに新作に挑むことに。同じクールには、新人監督の斎藤瞳とプロデューサーの行城理がタッグを組んだアニメも放送される。果たして覇権(ハケン)をとるのは・・・。

『陸王』 池井戸潤

勝利を、信じろ!足袋作り百年の老舗が、ランニングシューズに挑む。埼玉県行田市にある「こはぜ屋」は老舗足袋店だが、零細企業で業績はジリ貧。そんなある日、社長の宮沢はふとしたことから新たな事業計画を思いつく。ランニングシューズの開発だ。しかし、さまざまな困難が立ちはだかる。こはぜ屋にはたして未来はあるのか?

『店長がバカすぎて』 早見和真

谷原京子、二十八歳。吉祥寺の書店の契約社員。超多忙なのに薄給。お客様からのクレームは日常茶飯事。店長は山本猛という名ばかり勇ましい「非」敏腕。人を苛立たせる天才だ。ああ、店長がバカすぎる!毎日「マジで辞めてやる!」と思いながら、仕事を、本を、小説を愛する京子は・・・。

『お探し物は図書室まで』 青山美智子

仕事や人生に行き詰まりを感じている5人が訪れた、町の小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押ししてくれて・・・明日への活力と希望が満ちてくる物語。私もこんな司書さんになりたいなあー。